

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		縄文時代草創期遺跡群における地すべり・土石流災害による立地・生活環境の変遷復元			
研究テーマ (欧文) AZ		Transition of location and living conditions by landslide and debris flow disaster at Archeological ruins of Jomon Initial period in Tsunan area, Niigata Japan			
研究氏 代表 者	カカナ CC	姓) ウラベ	名) アツシ	研究期間 B	2010 ~ 2011 年
	漢字 CB	ト 部	厚 志	報告年度 YR	2011 年
	ローマ字 CZ	Urabe	Atsushi	研究機関名	新潟大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		災害・復興科学研究所 ・ 准教授			
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>本申請は、地すべり起因の信濃川の堰き止め・決壊イベントとの履歴の解明と、清津川と信濃川合流部における土石流堆の堆積と流路の争奪に着目した検討から、同地域の遺跡立地と地すべりや土石流などの災害イベントの関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p>このため、合流部において、①発掘中の遺跡における層位や立地環境の解析、②堰き止め地形でのボーリング調査、③ボーリング試料の解析と年代測定などの検討を行った。また、清津川流域を含め上流部での地すべり・堰き止め・決壊(土石流)イベントが下流部の遺跡立地に対する影響を評価するために、④地すべり・崩壊地形の形成年代を把握するためのボーリング調査、⑤ボーリング試料の解析と年代解析を行った。</p> <p>この結果、清津川と信濃川合流部では、信濃川を堰き止めた地すべり堆積物を認定し、近傍の遺跡における層相解析から、約 11,000 年前の地すべりによる堰き止めとその決壊により信濃川の流路が変遷したため、当時の河床の中州部分に人々の生活が進出したことが推定できた。このように離水した段丘での生活拠点から、新たに 1 段低い地形面に進出する要因として、単に隆起による段丘形成を待つだけでなく、地すべりによる地形変遷によって遺跡立地可能な地形が形成されることがわかった。さらに、同地域では約 14,000 年前の地すべりと堰き止め堆積物が認定でき、地すべりによる地形変遷が繰り返されていることがわかった。</p> <p>土石流と遺跡立地との検討では、当該地域において発掘中の遺跡の観察から、遺跡は土石流による地形の高まり部分に立地しており、土石流堆の移動に応じて遺跡が立地していくことがわかった。これまで段丘が発達する地域では、段丘の離水により生活空間が拡大していくとされてきたが、地すべりや土石流による地形形成も、人々の新たな生活空間への進出に大きな影響を与えていることが明らかとなった。</p>					
キーワード FA	縄文時代草創期	遺跡立地	地すべり	土石流	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	卯ノ木泥炭遺跡の層序とテフラ・堆積学							
	著者名 ^{GA}	卜部厚志	雑誌名 ^{GC}	新潟県卯ノ木泥炭層遺跡の発掘調査による縄文文化形成期の古環境と生業の研究 年次報告書					
	ページ ^{GF}	113~118	発行年 ^{GE}	2	0	1	1	巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}	卯ノ木泥炭遺跡の層序とテフラ・堆積学							
	著者名 ^{GA}	卜部厚志	雑誌名 ^{GC}	新潟県卯ノ木泥炭層遺跡の発掘調査による縄文文化形成期の古環境と生業の研究 研究成果報告書					
	ページ ^{GF}	175~185	発行年 ^{GE}	2	0	1	2	巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}	津南町の地層に記録された自然災害							
	著者名 ^{GA}	卜部厚志	雑誌名 ^{GC}	津南学					
	ページ ^{GF}	印刷中	発行年 ^{GE}	2	0	1	2	巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 ^{EZ}

The purpose of this study is to clarify the relation of disaster event and remains location from the examination of the landslide which blocked Shinano River and distribution of debris flow deposits in the Kiyotsu River. Therefore, this study examined analysis of the stratum in remains, boring exploration in the landslides and blockage landform and, analysis of the sample and datings. As this result, landslide sediment which stopped Shinano River about 11000 ago was recognized. From the facies analysis in the remains, the watercourse of the Shinano River changed by blockage of the landslide and collapse, and it was proven that the human life space was expanded. In the same region, it was blocked by the landslide about 14000 ago, and the blockage sediment was able to be recognized. It was proven that the landform transition by the landslide was repeated. It was proven that in the examination between debris flow and remains location, it was locating from the observation of remains at the higher part of the landform by the debris flow, and that it locates remains in proportion to the transfer of the debris flow deposits. In the river terrace region, the human life space had expanded it until by the syneresis of the terrace, it became clear that landslide and landform formation by the debris flow also gave large effect for the advance of people to the new human life space.